

EA539A

(裸圧着端子用圧着工具)

適合範囲 14～60mm² (銅線用裸圧着端子およびスリーブ)

公称出力 42kN

全長 325mm

重量 2.0kg

ケース付

JIS C 9711適合品



■使用上のご注意

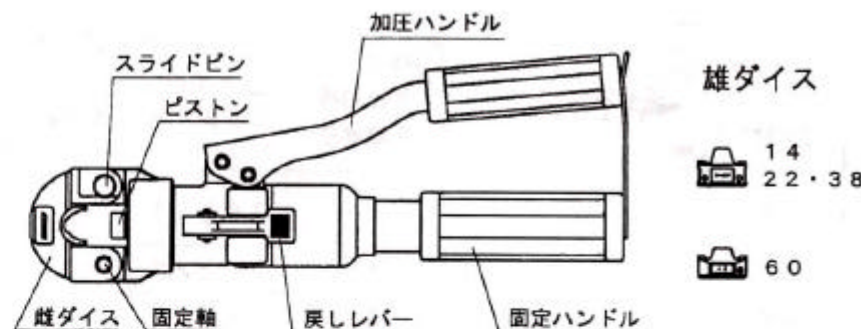
先に「安全上のご注意」を記載しましたが本工具を使用する際、さらに記載する注意事項を守ってください。

- JIS規格に適合する配線工事をおこなう場合には、圧着する端子またはスリーブおよび電線は、必ずJISマーク付きのものを使用してください。
- 圧着する端子またはスリーブおよび電線とダイスの組合わせに誤りのないようにしてください。
- 圧力規制装置部は専用のチェックメータによる調整時以外には、絶対に手を加えないでください。
- 雄ダイスを付けたままでの、カラ押し操作は絶対にしないでください。
- スライドピンは、確実に差し込んでから圧着をおこなってください。
- 作動油は、指定のもの以外は使用しないでください。
- 工具を高所から落とすなど過度な衝撃を与えないでください。
- 工具の作動油の流れを良くし、作動を完全にするため-5℃以下で保管した工具を使用するときは、10～25℃の室内に約60分保管したあとで使用してください。
- 工具を使用しないときは、ピストンを下死点まで下げておいてください。
- ヘッド部を回転させるときは、ピストンを下死点まで下げてください。
- 圧着作業をおこなったとき、工具の圧力規制装置が作動し、ピストンロッド部の黒色の圧着完了ラインが完全に見えたことを必ず確認して、確実な圧着作業をおこなってください。圧着ラインが見えないときは直ちに作業を中止し、工具の点検をおこなってください。
- この工具の寿命は、15,000回を目安として設計してありますのでこの回数を越えたら交換してください。

ハンドルを最大まで開ききらずに小刻みにダイスを送るようにしてください。

作業の途中でハンドルを開ききるとダイスがかみこんで戻らなくなる可能性があります。

■各部の名称



■工具の仕様

型 式	
構 造	カートリッジ式圧力規制装置
適用電線コネクタの種類	JIS C 2805 銅線用圧着端子の裸圧着端子 JIS C 2806 銅線用裸圧着スリーブの直線突き合わせ用 (B) 直線重ね合わせ用 (P)
適用電線コネクタの呼び	14～60
出 力 (ダイス部荷重)	42 kN
作動油	シェルテラスオイル T15
オイルタンク容量	約60 cm ³
質 量	約2.0 kg

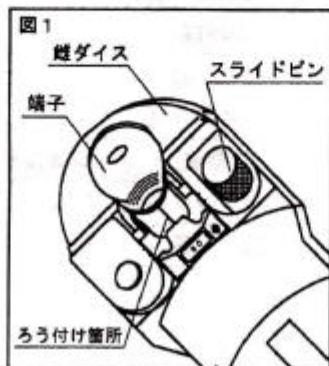
■ダイスと電線の組み合わせ表

適用電線 コネクタ の呼び	雄ダイス	雌ダイス	JIS C 2805 銅線用裸 圧着端子	JIS C 2806 銅線用 圧着スリーブ	
				直線突き合 わせ用 (B)	直線重ね合 わせ用 (P)
14	14-38	14-60	14	14と14	5.5と5.5 8と8
22			22	22と22	8と14
38			38	38と38	14と14
60	60		60	60と60	22と22

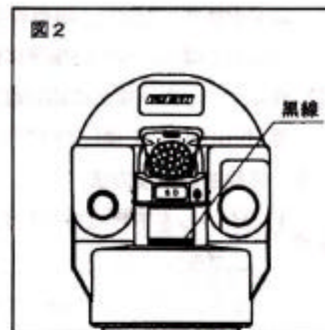
■使用方法

- ① 圧着する端子またはスリーブにより適合ダイスを選定し、次の順序で装着します。
 - 1) スライドピンを抜き、雌ダイスを開きます。
 - 2) ダイスと電線の組み合わせ表より選定した雄ダイスをピストンに装着します。このとき雄ダイス14-38は適合サイズが正面になるように合わせてください。(14と22・38は取付け方向が異なります)

- ② 雌ダイスを閉じ、スライドピンを確実に差し込みます。
- ③ 端子(スリーブ)は、ろう付け箇所を雄ダイス側に合わせ、筒部が中心になるように保持しながら、加圧ハンドルを操作し、端子(スリーブ)が落ちない程度に固定します。(図1)
- ④ 電線を筒部端より芯線が1mm程度出るか、突き当たるまで挿入します。



- ⑤ 加圧ハンドルを開閉操作し、ダイス間が密着状態となり、圧力規制装置が作動(ハンドルの操作力が急激に低下)するまで加圧します。このとき、ピストンのロッド部に表示された黒線が見えています。ピストンロッド部の圧着完了ラインが完全に見えるまで操作をおこなってください。圧着は正常におこなわれ、これで圧着完了です。(図2)



注：圧着が進むに従い、強い操作力(最大245N)が必要となりますので、ハンドルは大きく開かず小さくめに開閉操作しますと楽な作業ができます。

- ⑥ 戻しレバーを押し、ピストンを下死点まで下げます。
- ⑦ スライドピンを抜き、圧着した端子(スリーブ)を取り出し、端子(スリーブ)の圧着部分の圧着マークを確認してください。

この工具は、圧着開始以後での途中戻しは、非常に困難となる構造となっております。位置決めは確実に起こない、圧着を開始したら、必ず圧力規制装置が作動するまで加圧してください。